

日本共産党、4議席 ——綾部市議選 平和・暮らしを守る 決意、新たに！



綾部市議会議員選挙の

結果について

2018年8月27日

日本共産党中丹地区常任委員会

1、綾部市議選の投票結果

8月26日投票された綾部市議選は、定数18に対し現職12人、新人9人の21人が立候補し、3人オーバードの大激戦となりました。投票率58.95%で前回より2.54%下がるもと、党と後援会、多くの支援者のみなさんが一体となってたたかい、搦頭久美子、吉崎久、井田佳代子、中島祐子、4人全員の当選を勝ち取りました。党候補にご支援いただいたみなさん、選挙戦にご奮闘いただいたみなさんに、心からお礼と感謝を申し上げます。

日本共産党の4候補の得票合計は3324票で前回より125票減りましたが、得票率は19.98%と0.57%前進させました。2016年参院選比例票の113.3%、2017年衆院選比例票の128.6%でした。

搦頭久美子	766票	当	14位
吉崎久	879票	当	7位
井田佳代子	855票	当	9位
中島祐子	824票	当	10位

2、選挙戦の様相と、たたかいた特徴について

(1) 通常国会閉会直後、来年の参院選・統一地方選を前にして、告示日に各党の国

會議員が応援はいるなど、安倍政権の暴走と改憲が狙われるなかで、日本共産党の得票の前進と4議席確保で綾部から審判を下そう、世界連邦都市宣言第一号の綾部から憲法9条を守り活かそう、と訴えました。

(2) また自民党・市長の推薦・後押しで立候補する候補者が、前回より多い14人となり、市長に言いなりの議員が増えるのか、国・府にも市長にもハッキリものを言う日本共産党が4議席を確保するのが市議選の焦点となりました。党と後援会は、水道料金の値下げをはじめ、災害対応、子どもの医療費助成の拡充、小中学校へのエアコン設置、学校給食など、暮らしや福祉など市民要求に根ざした実績と政策を訴えるとともに、市民の願いが実現するまで、何度も何度も取り上げ、粘り強くたたかう日本共産党の4議席の値うちを訴えてたたかいました。

(3) 自民党・市長派が9人の新人候補を擁立し、11期43年市議をつとめた堀口達也さんが引退した旧市内部をはじめ、保守候補を競い合わせることで票を掘り起こすなど、選挙戦は「自共対決」を軸に、従来から様相が激変しました。そのなかで『共産党は大丈夫だから他の候補に票を回して』と言ってきた「公明党が『共産党だけには入れない』と訪問してきた」「何でも反対の共産党ではダメ」など、共産党落としても狙われる激烈な選挙戦となりました。

(4) こうした選挙戦の様相のなかで党と後援会は、市内全域で攻勢的な論戦と組織活動をすすめました。「中島ゆうこと綾部の未来会議」など若い世代のとりくみ、候補者の地元自治会関係者、他党派支持のみなさんと一体となるたたかいが発展し、新たな支持の広がりを作り出し、「共産党落とし」の攻撃をはねのけて得票率を伸ばしたことは大きな意義があります。42歳の中島祐子候補へのバトンを成功させ、かけがえのない党4人の議員団を確保したことは、綾部市民の幅広い世代・各層の要求を実現していくうえで大きな力になるとともに、綾部での民主的運動・たたかいの歴史を、次の世代に継承していくうえでも大きな成果となるものです。

(5) 他方、自民党は現職1人を落選させ、下位当選者3人は自民系候補者で占める結果となりました。国会議員・府議が第一声に廻るなど、各党が来年の参院選・統一地方選にむけた前哨戦と位置づけただけに、全体として参院選・地方選での前進につながる意義をもつ結果です。日本共産党は4人全員当選を力に、市民要求実現に奮闘するとともに、参院選・統一地方選での勝利めざして引き続き奮闘します。

以上